

仙人通信 90 山伏 (2014m)

山伏(やんぶし)は、山梨100名山の48番目の山で、梅ヶ島温泉を取り巻く様に南西に延びた尾根に位置し、夏にはヤナギランの群生で有名な山である。梅ヶ島温泉の手前の新田(ワサビ田が開墾された事による地名)から、大谷川に沿って林道に入り、さらに日影沢のダートを進んだ所にある駐車場から山頂を目指すコースである。歩き始めると大きな猿が梢の上から手招きで迎えてくれた。林道を進むと「熊出没注意」の大きな看板が掲げられ、注意を喚起している。5分程進むと、玉石で造られた潜橋を渡る。そこに「このコースは危険であるので避けるよう」との、連続の警告板だ。その横に、小さな「山伏」と書かれた道標が登山口を示す。日影沢の名の通り、陽射が入らない杉木立で薄暗く、足元の湿った杉の落葉でよく滑る。5分程でワサビ栽培用のモノレールが沢の上部に向けて、敷設されている基点に出る。やがてワサビ田が始まり、この時期でも緑の葉が見られる。沢筋の石は、主体が青黒い粘板岩で大理石のような石灰岩や凝灰岩も見受けられる。モノレールは登山道を横切り沢の対岸に進むものと、左手の山肌を這い上がる二本に分岐する。赤い実のマユミやミヤマシキミを見ながら沢に降り、丸太橋を渡りと見事な滝が現れる。露地に出てワサビ田となるが、冬の凍結に備えてであろうかワサビはもう無い。40分位で大きな岩(小石を抱き込んだ凝灰岩)が現れる。その下を右に進むと最初のベンチとなる。ここからは支流の沢沿いを進む。登山道は細かく破碎された粘板岩が主体となる。足元が崩れやすく滑ることから、張られたロープを手繰りし登る。20分位間隔でベンチや水飲み場杉が準備されているが、檜の薄暗い木立と瀬音によって他の音が掻き消され、本当に一人である事を実感させられる。実生の2・3枚の葉を受けた可愛らしいワサビが点在する。左の崖の上にトタン屋根の小さな小屋(上にもワサビ田があるようだ)が見える。アルミ製の梯子を上り、沢から離れると尾根が見えてくる。スタートから1時間半で暗い林から脱出し、小さなワープロ文字で書かれた道標の蓬峠である。開けた前方には、崩壊の進んだ大谷嶺と、手前の崩壊防止の白いコンクリート壁の蓬沢が対象的である。植生が、笹藪にブナ・胡桃・ミズ榎等に変った尾根の北側を20分程詰めると日の当たる南側のコースとなる。瀬音から開放された上に数羽のヤマガラが先導してくれて嬉しい。足元の岩は先程と同様な破碎した粘板岩で、ロープが張られている。この一帯は、山梨の早川の雨畑から始まり安倍川の西側を静岡に走る笹山構造線の東側に位置し、四万十帯の中の瀬戸川帯に属する粘板岩の層だ。梢越しには、安倍川の先の十枚山から竜爪山までが望めるも、その先は白く湧き上がった雲の中である。蓬峠から1時間30分で笹の葉を雪が白く染める縦走路との出会いである。鹿からヤナギランを守るネットが張られた、緩やかな笹原のコースだ。10分程で二等三角点の山頂に辿り付く。予期した事であるが寒冷前線の南下で、黒い雲が南アルプスに張り出し360°の展望は望めず残念である。流れる雲間から、短時間ではあるが、七面山・白く化粧した北岳・塩見、そして富士山が顔を出してくれた。下山まで5時間50分の山旅、そして紅葉に彩どられた40Kmもの安倍川の岸辺を楽しんでの帰路となりました。(h21.11.27)

山頂と七面山



冠雪の塩見岳



瞬間顔を出した富士山

